

第3回宗像市農業振興推進協議会
《議事録》

◆ **日時・場所**

- 日時：平成20年3月24日（月）10：00～11：30
- 場所：宗像市庁舎 北館103B会議室

◆ **出席者**

- 宗像市農業振興推進協議会委員

| 委員出欠表（ <input checked="" type="checkbox"/> 出席 <input type="checkbox"/> 欠席） | | | |
|--|--|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 深田彰子委員 | <input checked="" type="checkbox"/> 山下雅弘委員 | <input checked="" type="checkbox"/> 中野泰雄委員 | <input checked="" type="checkbox"/> 石松秀一委員 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 乙藤まり委員 | <input checked="" type="checkbox"/> 高宮計美委員 | <input type="checkbox"/> 早田義彦委員 | <input checked="" type="checkbox"/> 岩佐洋一委員（副会長） |
| <input checked="" type="checkbox"/> 山田 堅委員 | <input checked="" type="checkbox"/> 中村料康委員（会長） | <input checked="" type="checkbox"/> 天野寛子委員 | <input checked="" type="checkbox"/> 伊藤征子委員 |

- 事務局：高宮農業振興課長、安部振興係長、田村・永野振興係職員

◆ **議事内容**

1. 開会の挨拶

会長挨拶

只今から第3回宗像市農業振興推進協議会を開催します。今回は主にパブリック・コメントへの回答案及び農業振興計画（案）について協議いただきたいと思います。

2. 前回議事録の確認

事務局：第2回宗像市農業振興推進協議会《議事録》の確認。

3. 農業振興計画案の協議

①パブリック・コメント結果及び回答（案）について

事務局：資料に基づいて説明。

会 長：事務局からの説明がありましたが、何かご意見はありませんか。

市民から意見が2件出ています。広報の一面に掲載されました。

委 員：ブランド化について「むなかたキラリ」について、あるのに何で書かれていないのか？

委 員：一般の方に知られていないのではないのか？

委 員：せっかくやっているのだから、それを書いた方がいいのではないのか？

事務局：「一市一品」という考え方について、市で、特産品を一つに絞り込んでいくということではない。回答のやり方として、事例を含めて、回答を整理する方向で検討したい。

委 員：実際していることはしっかりあげて、出した方がいい。

委 員：市民意見はどういう形で来たのか？

事務局：メールと文書で来ました。

委員：できれば、直接、会って話を聞いた方がいい。

事務局：食料自給率について、直接、回答がないが、これでよろしいか？

委員：市の自給率が出ているのなら、出したらいい。市町村別に出しているはず、P12あたりの取り組みを書いたらいい。

事務局：給食の自給率は、野菜で、41%です。

委員：季節物で保存できないものもあり、やむを得ない。

委員：直売所ができてから、自給率が上がっているはずなので、それを書いたらいい。

事務局：前原市では、自給率の目標をあげている。

会長：給食で要望があっても、直売所でもすべてにんえきれない。

委員：生産者からすると、夏休みの期間需要がないので困る。通常の市場出しの長ナスと、別の品種なので、処分に困る。

委員：質問者は、高齢化と遊休農地の活用をグリーンツーリズムで対応すると考えているが、他の事例を聞くと難しい面もある。「農業に行き詰まったら、安易に観光農園」という考えがはびこっているようで心配だ。

委員：グローバルアリーナと、体験農園について、検討しているが、なかなかむずかしい。春は何もないので、馬鈴薯堀りでもしてみようかと考えている。宿泊は、農家民泊もいいがグローバルアリーナで安く泊れるので、それを活用したい。

事務局：観光農園では、みかんオーナー園、いちご狩り、ブルーベリー園などがあり、売上も大きく成功している。農作業体験については、正助村が田植え、稲刈り、ジャガイモ・サツマイモ・ピーナッツ堀、枝豆狩り等を行っている。グリーンツーリズムは今後も推進していきたい。

委員：東海幼稚園のイモ植え、イモ堀りをしている。学校を受け入れるのはある程度できるが、一般市民との交流をどうするかが大切。消費拡大に結びつかない。

委員：正助の市民農園は？

事務局：今のところ希望者でいっぱい。拡大の余地はあるが、もうからない。

委員：もうける、というよりも遊休農地の活用が大事。

委員：芋堀りでは、もうからない。もうけるためにしているのではなく、奉仕のつもりでやっている。園児の笑顔を見たら、作って良かったと思う。

委員：自給率向上の回答は、給食の活動と直売所の支援をしていく、という形でまとめるのですか？

事務局：はい、そうです。今は追い風ととらえています。

委員：スーパーからも、直接取引したいという声がある。

会長：パブ・コメについてはこれでよろしいですか。ほかに意見はありませんか？無ければ次の計画（案）の協議に入ります。

②計画書（案）の協議

事務局：本日お配りしている計画書（案）は、前回の協議結果を踏まえて修正を行い更にパブ・コメにかけたもので、最終的には、協議会の委員名やパブ・コメ結果も載せる予定です。この計画（案）について、修正を加えたほうがよいところがありましたらご意見を頂きたい。

委員：数字については円グラフや棒グラフにできませんか？グラフ化したほうが見やすいと思う。

事務局：グラフ化したほうが見やすい部分については、検討します。

委員：用語集の出典はどこか？

事務局：前回の農業振興計画、農水省や日本GAP協会等のホームページからです。

委員：なぜJGAPなのか？JAではGAPを目指しているようですが、JGAPまで厳しくないGAPを考えているようです。JGAPは日本で一番厳しい。

事務局：その点については、JAと協議してみます。

会長：他に何か意見はありませんか。

委員：病虫害防除ランプという表現は適切か？温湯消毒についても書いてあるが、減農薬技術はこれだけではない。全体的に具体的なところとそうでないところがあつてどうかと思う。

事務局：例としてそういう技術をあげている。誤解を生ずるおそれのある表現については、検討させていただきます。

委員：米の減農薬・減化学肥料の認証を得るには、温湯消毒技術は、必須である。

会長：減農薬・減化学肥料というのは、時代の流れです。ほかに意見はありませんか？ないようでしたら。この部分については、事務局の答弁のように検討・修正することとすることでまとめさせていただきたいと思いますが。

事務局：本日の意見を踏まえて修正したものを計画書として簡易製本で作成したいと思いません。

委員：1つ意見を出したいと思えます。遊休農地が拡大して、イノシシが増えています。イノシシが出るから畑が荒れ、耕作放棄地が出る。すると、また、イノシシが出て次の畑が荒れるというように耕作放棄地が拡大している。イノシシ対策については市はどのように考えているのか？

事務局：今のところ、銃、ワナ、電気柵で対応しています。

委員：電気柵は効かない。私たちのところでは、地域全体で網を張ろうという話し合いをしている。

事務局：昨年12月に有害鳥獣特措法が成立し、平成20年度から基本計画、協議会をつくられば、特措法の助成の対象になります。今後は、この活用を考えている。

会長：ほかに意見はありませんか？

委員：計画全体について、具体的なところが少ない。具体的な部分はそれでよいと思うが、何々しますではなく、具体的にやろうとしていることを書いたほうがわかりやすいのではないか？産業振興計画では、DOの部分が出ている。

事務局：産業振興計画はアクションプランである。農業振興計画をアクションプランにすると、個別項目の特化となり、他の項目との整合がとれない部分もある。今回の農業振興計画は、合併による市域の拡大にあわせて、今後の農業振興施策の基本的な方向を打出したものである。ＤＯの部分は、個別の事業の実施計画の中で出したい。

委員：市は実際にいいことをやっているのに農家に知られていないと思う。

事務局：それについては、今後、農家への周知を図っていかなければならないと考えている。

会長：ほかになにかありませんか？なければ、最後の議題の「その他」の協議にはいいと思います。なにか意見等はありませんか？

委員：協議会の来年度以降の役割は？今回で協議は終わりか？

事務局：計画策定の協議は今回で終わりです。委員の皆様の任期は、来年度までであるので、残任期間については、計画の進行管理を協議会でやっていただきたい。これについては再度ご案内するので、ご協力をお願いします。

会長：ほかになにかありませんか？なければ計画策定の協議を終わりたいとおもいます。活発な議論ありがとうございました。